



隔号連載エッセイ

小松英一郎の「天文学者ですがなにか？」

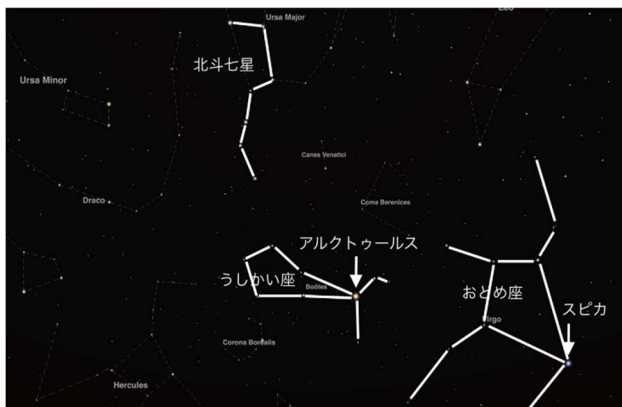
今年は（今年も？）暖冬でしたね！例年なら4月頭に満開を迎えるオリンピック公園の桜ですが、今年は2週間も早く咲き始めました。イースターの連休中には気温が20度近くまで上がり、快晴の下、休暇を楽しまれた方も多かったのではないのでしょうか。僕が参加する軟式野球チームは例年5月にシーズンを開幕するのですが、今年は史上最も早い4月7日に開幕します（この原稿は4月2日に書いています）。ただ、そうは言いつつも4月に雪が降ったりするのがミュンヘンですよ。さてさて、今年はどうなるのでしょうか。

今日のテーマは「春の大曲線」です。

春ですね。ミュンヘン日本人会の皆様は、どんな時に春の訪れを感じますか？春一番に地面に咲く（と僕には思われる）青い花「ムスカリ」や、鮮やかな黄色でおなじみの「レンギョウ」、そして桜などの花々を目にした時でしょうか？それとも花粉症の症状が始まる頃でしょうか？暖かくなって外でバーベキューをしたり、ビアガーデンがオープンしたりすると春の訪れを感じる方もいらっしゃるかもしれません。今年のFrühlingsfestは4月19日から5月5日までなので、このエッセイを手にとった方の中には、すでにFrühlingsfestで春とビールの到来を同時に満喫された方もいらっしゃるかもしれません。



僕は、夜空に「春の大曲線」を見ると春の訪れを感じます。春になると、北斗七星が東の夜空に高く昇ります。まずは北斗七星を見つけてください。北斗七星は「ひしゃく」の形をしていると言われますが、そのひしゃくを持つ部分は緩やかな曲線を描きます。その曲線をたどり、北斗七星から夜空の低い方へ伸ばすと、ほんのりと赤い星が見えます。さらに伸ばすと青白い星が見えます。これらの星々が夜空に大きな曲線を描くことから、「春の大曲線」と名付けられました。図は5月のミュンヘンの東の夜空（夜9時ごろ）を表したものです（timeanddate.comを用いて作成）。



赤い星は、うしかい座の「アルクトゥールス」。青い星は、おとめ座の「スピカ」。どちらもとても明るい星なので、北斗七星のひしゃくからたどれば誰でも見つけることができます。小学生の頃、神戸青少年科学館のプラネタリウムの星空紹介で教わって以来、僕は春の大曲線の大ファンです。9月生まれのおとめ座なので、スピカを含む大曲線には愛着もひとしおです。星座を表す線を加えた夜空はこちらです（timeanddate.comを用いて作成）。しかし、夜空には線は引かれていないので、実際に春の大曲線を探すときには、先の図の方が役に立つと思います。

「春の大曲線」の名付け親は、天文学者の鈴木敬信教授だそうです。そのため、ドイツの人に言っても何のことかわからないでしょう。これは日本人だけが知っている大曲線です。なんだか得した気分になりませんか？一方、欧米で知られているのは「春の大三角」です。これはアルクトゥールス、スピカ、そしてしし座のレグルスを結ぶ三角形ですが、レグルスはアルクトゥールスやスピカよりずっと暗いので、ミュンヘンの夜空で見つけるのは難しいかもしれません。見つけやすさでも、大曲線の方に軍配が上がるようです。

季節が変わり夏がやってくると、夜空にひときわ目立つ「夏の大三角」が現れます。その形から「北十字」とも呼ばれる、はくちょう座の一番明るい星デネブ、こと座のベガ、わし座のアルタイルを結ぶ三角形です。ベガとアルタイルは、七夕伝説でおなじみの織姫と彦星です。はくちょう座は天の川の流れに沿うように位置し、ベガとアルタイルは七夕伝説のように天の川を挟んだ位置にあります。はくちょう座を見ると、「ああ、夏が来たな」と思います。



ミュンヘンは緯度が高いので、夏は夜9時を過ぎても明るく、星座を楽しむためには頑張って起きていなければなりません。暗くなるまで Englischer Garten のビアガーデンにいて、帰りにほろ酔い（決して泥酔ではありません）で見る夏の大三角は、いいものです。『夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ』とは清少納言の枕草子ですが、明るい月があると星は見えにくいので、彼女の言うように、月のない闇夜に夏の星空を楽しみたいものです。

秋の夜空は、目立って明るい星もなく、ちょっと面白くない時期なのですが、アンドロメダ銀河が現れます。次回のエッセイは9月なので、そこで紹介したいと思います♪

これらの星々は、北半球に住む人なら誰でも見ることができます。日々の生活や仕事で忙しい方も。災害に遭い、避難生活を送っている方も。復興に向け、夜も一生懸命働かされている方も。戦争のさなかで、夜間の空襲や砲撃の脅威にさらされている方も。様々な境遇の人が、同じ地球に住み、同じ星々を見ることができます。なんでもないことのようにですが、僕は、今、自分と同じ星空を見ているかもしれない人たちのことを考えずにはいられないのです。

それでは、Bis zum nächsten Mal!

小松先生のプロフィール

兵庫県宝塚市出身。東北大学理学部卒業、理学博士。

米国プリンストン大学博士研究員、テキサス大学教授をへて現在、マックス・プランク宇宙物理学研究所所長。

日本天文学会林忠四郎賞（2015年）、基礎物理学ブレイクスルー賞（2017年）、井上學術賞（2021年）や仁科記念賞（2022年）など、国内国外の賞を多数受賞。

★広告コーナーについて★

「広告コーナー」（有料）は営業目的と判断される広告の掲載などにご利用いただくコーナーです。当会が協力または推薦しているわけではありません。従って内容に関する責任は負いかねますので、予めご了解ください。掲載についてのお問い合わせは事務局までどうぞ。

★事務局からのお知らせ★

5月10日（金）と、5月20日（月）～5月31日（金）はフィンクス学校休暇のため事務局を閉局いたします。

2024年会報7/8月号の締め切りは6月17日（月）10時です。時間厳守をお願いいたします。

発行は7月8日（月）を予定しています。